

第2陣は女川・名取へ

15日～19日 10か所で公演

グループ わ の東北支援チーム第2陣は今月15日に出発。19日までの5日間、女川町・石巻市・名取市・東松島市で計10回の慰問活動を行います。昔遊び・紙芝居・マジック・歌など「いやし系」のプログラムが中心で、メンバーは関係サークル有志と、本部から2人の計15人です。

15日早朝、新神戸から新幹線で仙台へ。レンタカーで各地域の仮設住宅・小学校・幼稚園・児童館を回り、19日の夜行バスで帰る日程です。今回の助成金は、福祉医療機構からなので「子供対象の活動」という条件がついており、ガレキ除去などの作業は見送ることにしました。12月には石巻・東浜小学校の児童を招待するプランも進んでおり、今回、先行訪問して交流を深めることになりました。

【予定の公演先】16日＝午前、午後とも女川町の仮設住宅。17日＝午前、午後とも女川町の仮設住宅。午前は東松島の幼稚園も。18日＝午前は石巻・東浜小学校。午後は名取市の保育所・児童センター。19日＝午前、午後とも名取市の保育所と児童センター。

【第2次支援チーム参加者】西田圭一・道満俊徳（わ本部）大澤貞男（生13）内田たみ子（福10）増金スミ子（福11）飯川泰郎（国12）古後健一（福18）中村宏栄（福9）高木良治（福10）田邊瑩子（福12）波多野武郎（食16）黒本茂弘（食13）南形公子（福13）海野龍英（食16）内村ナナ子（国18）

石巻の小学生を招こう

石巻の子供たちを神戸に招いて交流しよう—グループ わ は、12月10～12日の3日間、神戸市立竹の台小学校（西区）に宮城県石巻市立東浜小学校の児童・保護者ら22人を招待しようと準備を進めています。一行は10日に新幹線で神戸へ。ルミナリエを見学してしあわせの村に宿泊。11日はバスで明石大橋・須磨水族園・王子動物園などを巡り、同夜もしあわせの村に宿泊。12日は竹の台小学校で交歓会を開き、午後の新幹線で帰途につきます。11日の市内観光には藍那小学校（北区）の児童ら13人も同行します。

この交流会は、福祉医療機構からの助成金が決まり、実現することになったものです。東浜小には、第2次東北支援チームも訪問する予定です。同校は、牡鹿半島の山間地にあり、児童は23人。津波の被害はなかったが、現在も1階は避難所になっているそうです。



登米市迫児童館でメッセージ贈呈

手から手へ...神戸の心届けた

財団法人こうべ市民福祉振興協会 佃 孝司

東日本大震災の募金活動は3月から始めましたが、私のセクションの担当は、神戸からの応援メッセージを届けることでした。市民や小中学生から、「心を一つに」「応援しています」と書かれたメッセージが続々と集まり、5月中旬までに1万通を超えました。募金3千4百万円余りで購入した救援物資と一緒に、現地へ派遣される神戸市職員を通じて岩手・宮城・福島県下17市町の避難所等に直接届けました。

手から手へ、神戸市民の心を伝えよう—との思いからでした。

その後も、メッセージを送りたいとの要望が小中学校から相次ぎ、「次は、私たちが直接持って行こう」と、7月のしあわせの村支援隊派遣につながりました。この支援隊は3日間で宮城・福島の4か所を訪問、コンサートやストレッチ体操、昔遊びを避難者や子供たちに楽しんでもらいました。昔遊びの3人は、グループ わ から参加いただきました。

村内にある各福祉施設や事業者からの応援メッセージを届けるとともに、合唱したり、体操したり、はしゃぐ子供たちの笑顔がうれしかったです。「来てよかったな」。私も、出演の音楽スタッフも胸が熱くなりました。特に、仙台市の仮設住宅（若林区荒井小学校用地）には、4か月前に届けた神戸市立垂水中学校からのメッセージパネルが張ってありました。これには感動しました。

9月から本館・宿泊館や温泉健康センターの2か所で東北の物産品を販売しています。販路を失った障がい者施設で作られた燻製品・ぼち袋・封筒などです。今後は、7月の支援活動での「絆」をより深める取り組みとして、被災地の子供たちを村に招いたらどうか、とも考えています。これからも我々ができる息の長い支援を続けたいと思っています。ご協力ください。（談）